

## <府中の家> 施主様より

この家に住み始めて早3年。

路地を曲がると目に飛び込んでくる連層窓と背の高い木製玄関ドアを持つ外観、玄関を開けると吹き抜けで広がる空間と螺旋階段・・・毎日見る景色だが、それでも飽きずにカッコイイ家だなあと自画自賛。

室内は統一されたデザインで、非常にシンプル。リラックスできる空間で心地良い。

土地の制約から親世帯の居住スペースを半地下に設けることになったが、実際に暮してみると夏は涼しく、冬暖かいという地階の特性が気に入ったようで住み心地抜群とのこと。

南側に広く取ったドライエリアからの採光で、地下の暗さも全く感じない。

使い勝手が良く、臼井さんデザインのオリジナルキッチンが特に秀逸。

元々料理好きな私だが、キッチンに立つのがより一層楽しくなった。料理をほとんどしない妻も洗い物が楽しそうである・・・？

建築中の出来事で今でも鮮明に覚えていることが二つ。

一つは工務店との減額交渉の際に最後の最後までどうしても予算額まで届かず悩んでいたときの臼井さんの一言。「これ以上の減額も可能ですが、それには痛みを伴います」と。。。「痛みを伴うって、小泉首相（当時）かっ！」と突っ込みたくなかったが、それまでに減額交渉に尽力いただいて大幅な減額を実現していたことと、なによりも私共夫婦の理想を十分に理解したうえでの一言に私は即決。痛いのは嫌なので、若干予算オーバーだったが納得して契約書に判を押した。

もうひとつは、完成間近の現場で現場監督さんも交えての打ち合わせ中に臼井さんと現場監督さんが私たちの前で激論を始めたこと。普段は温和な臼井さんが、良い家にするために声を荒げている姿を見て、この人は本気なんだなぁと安心感を覚えた。

施主のイメージを図面化することも、建築家の重要な仕事のひとつであるが、家作りの過程で避けて通ることのできないお金の問題や、素人では絶対に不可能な工事の監理まで真摯に取り組み、私共夫婦の理想の家を具現化してくれた臼井さんご夫妻に感謝々々。

**CLOSE** (web サイトに戻ります)